

病院の医師不足について 海岸線における防潮林について



大澤 博克

問 医師確保・定着化対策について
病院経営における最重要・最優先課題は常勤医師の確保ですが、若手医師の多くは大都市や大病院を目指す傾向が強く、医師確保は非常に困難な状況が続いています。現在の勤務医の維持と派遣は、関係大学に頼るしかないのが実情であり、関係大学との連携強化に努めてまいります。

答 掛川市のNPO法人が大浜地区にウバメガシなどを1万5千本植樹し、今後大須賀地区など6ヶ所で5万本を植樹すると聞いています。

問 常緑広葉樹の植栽計画について

答 市内のNPO法人からはそのような計画は

聞いておりませんが、今後お話があれば応援していきたいと考えています。また、市内では毎年ボランティア植樹の活動がされており、平成25年度も池新田地区と高松地区で実施が予定されています。



植樹活動

御前崎市の地震対策について 消防団員募集と待遇改善について



若杉 泰彦

問 市の避難施設として考えられている公共建築物はどの程度耐震性があるのか。また、これまでにどんな耐震対策を行ってきたのか

答 市内の小、中学校の耐震診断、耐震補強は、概ね完了しています。第一小は平成11年、東小は平成13年、北小は平成9年、浜中は昭和63年、御中は昭和59年です。御小と白小の管理棟は平成25年度に耐震補強工事をする予定です。

問 市内の民間木造建築物についての耐震性や、TOKAI(東海・倒壊)・0事業での耐震工事実績はどうか

答 市内では他の報酬が高い部分もあるのではと検討してきています。活動内容や減免制度についてはホームページでの広報やパンフレットも考えています。

御前崎市第5期 介護保険事業計画について



後藤 憲志

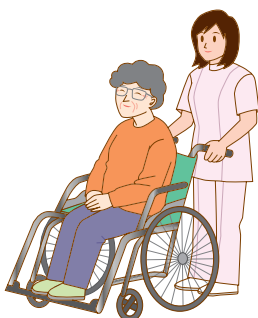
問 平成47年位までを見通した要介護認定者数の推計値は。また、各介護サービスの事業量の充足度についての所見と対応

答 団塊の世代が概ね75歳を迎える頃から介護ニーズの本格的な増大が予想されます。平成39年度の推計では、要介護認定者数は1,471人、そのうち要介護2～5は1,087人となります。予想される施設・居住系サービスの事業所の充足度は満たされるものと思われず。しかし、平成47年の推計値ではそれを下回り、その数値を維持することは難しいと思われる。

問 居宅サービスは、近隣市の事業所も含めたサービス

られる施設・居住系サービスの利用者数を要介護2～5の認定者数で除いた数値は43%となり、現在の数値とほぼ変わらないため、施設・居住系サービスの事業量の充足度は満たされるものと思われず。しかし、平成47年の推計値ではそれを下回り、その数値を維持することは難しいと思われる。

います。



問 政府及び厚生労働省は、生活保護基準の引き下げと制度の見直しを進めている。生活保護基準は憲法第25条の国民の「最低限の生活」を保障するものであり、引き下げはそれを奪うことになるが、市長の考えは

答 国や県の対応を参考に同様な措置を講ずることになると考えます。

将来的な財源確保について 小学生の通学路の安全対策について



松下 久己

問 将来的に安定した財源確保には御前崎港の活性化が重要である。活性化を今後どのように進めるか

答 御前崎港は、安定した財源確保として重要な社会資本です。港内工業用地への企業誘致を進め、新たな利用荷主の獲得など、継続して積極的に利用促進を図ってまいります。

問 企業はメリットを望みます。自らのポートセーブルを含め、県と連携を密にし、対応してまいります。

問 小学生の通学路について、確固たる歩道もなく、安全有効な歩道もない現状について市としての安全対策、危機管理は

答 各関係機関と小中学校における合同安全点検を実施し、グリーンベルトなどの設置を行いました。登下校のマナーなど交通安全指導を充実させる

問 御前崎港を輸送港から輸入港への発言がありましたが、具体的な対応策は

御前崎港を輸送港から輸入港への発言がありましたが、具体的な対応策は



白羽地区通学状況



御前崎小管理棟

問 浜岡原発内には現在6千本以上の使用済核燃料がある。再稼働は

H系断層の評価は、原子力規制委員会の動きも含め、今後の動向を注視して

